

## 「目白大学経営学研究」執筆要領

1. 論文等の内容は経営学に関するものであること。
2. 論文等の区分を以下の5種類とし、その区分をタイトルページの左上に明記する。
 

(1) 論文	Original Articles
(2) 調査・事例研究	Survey and Case Study
(3) 資料・研究ノート	Research and Notes
(4) 書評	Review
(5) 展望	Vision
3. 論文等（以下、論文と略す）の言語は日本語または英語のいずれかとする。
4. 論文は横書きとし、ワードプロセッサにより作成する。  
日本語による投稿論文は、A4版用紙に1枚40字×35行=1,400字とする。英語による投稿論文は、1枚500wordsを目安として作成する。
5. 論文の枚数はワードプロセッサ原稿で15枚程度とする。図、表、英文アブストラクト、日本語要旨に要するスペースもこれに含める。図や表は論文の本文中にそのままの形で入力し配置しておくこと。英文の論文の場合にも、ワードプロセッサ原稿で15枚程度とする。
6. 論文のタイプにより、編集委員会が妥当と認めた場合、前項の枚数を超えることができる。
7. 論文には最初のページの論題・著者名の下に、論文要旨、キーワードを順に付ける。  
論文要旨は日本語400～600字、英語100～175 words程度。キーワードは3～5語程度。  
英文要旨に関しては専門家の校閲を経ていること。
8. 日本語による論文は新仮名遣い、常用漢字を用い、平易な口語体で記す。  
漢字については、専門語はこの限りではない。副詞、接続詞、連体詞、助詞は原則として平仮名、同音多義で誤読のおそれのあるものは漢字、送り仮名は活用語尾を送る。  
数字の書き方は、原則としてアラビア数字を用いる。成語・慣用語・固有名詞、数量的意味のうすいものは漢字とする。例えば、一般的、一部分、第三者などである。ただし、19世紀、第1四半期などは例外とする。
9. 英語による論文は自然で正確な表現を用い、ネイティブスピーカー等の校閲を受けていること。
10. 本文は章節項などで構成し、“1.”、“2.3”、“4.5.6”のような見出し番号とタイトルをつける。
11. 学会等に発表している場合には、本論文は、学会名、講演会名、発表日、場所、において発表した、というように注記する。
12. 原稿受理日は、編集委員会の指示に従う。
13. 脚注は、注記の一連番号を参照箇所の右肩に書き、注記そのものは、本文の最後に一連番号を付けてまとめる。
14. 外国人・地名は原則として原語で表記する。ただし、広く知られているもの、また印字の困難なものについてはこの限りではない。
15. 数式・数字は別行に記し、末尾に通し番号を付ける。数字はアラビア数字で横書きし、3桁ごとにコンマ（,）をつける。
16. 引用文献は文章の一部に引用文献の著者名を含む場合は、著者名、続いて文献の発行年（）で囲む。文章の外で文献を引用する場合は、著者名、発行年度を（）で囲む。同一著者、同一年度の文献を複数個引用する場合は、発行年度のつぎにa, b, …と一連の記号を付ける。
17. 図および表（写真を含む）には“図1”、“図2”、“表1”、“表2”のように通し番号を付ける。  
表の題はその上部、図・写真の題は下部に書く。説明文はいずれも下部に記す。投稿原稿は正確にパソコン等の用器を用いて、そのまま写植して版下に使えるように書く。
18. 参考文献は、文中で参照する文献および特に関連ある文献のみを、本文末に一括してリストする。

19. 参考文献のリストの順序は、欧文和文を区別せず、原則として次の方式で配列する。  
 単行本の場合は、著者名、発行年、表題、発行所をこの順で記す。(ただし、欧文書については、発行所の前に発行地を記す)。英文の表題はイタリックにする。  
 また雑誌論文は、著者名、発行年、表題、雑誌名、巻号、ページをこの順に記す。表題および雑誌名等は略記しない。英文の雑誌名はイタリックにする。  
 参考文献の配列は著者の、あるいは第1著者の姓によってアルファベット順にする。下にその例を示す。  
 (和文の場合)  
 浅沼万里, 1997, 『日本の企業組織 革新的適応のメカニズム』 東洋経済新報社。  
 Palepu, K. G., V. L. Barnard and P. M. Healy, 1996, *Introduction to Business & Valuation*. South-Western. 斎藤静樹監訳, 筒井知彦, 川本淳, 村瀬安紀子訳, 1999, 『企業分析入門』 東京大学出版会。  
 (洋書の場合)  
 Horngren, C. T., G. Fostrer, and S. M. Datar, 1997, *Cost Accounting-A Managerial Emphasis*, 9th edition, Englewood Clifs, NJ: Prentice Hall.  
 (和雑誌の場合)  
 佐藤紘光, 2000, 「企業の投資行動と業績評価」 管理会計学 8 (1・2): 17-31.  
 (洋雑誌の場合)  
 Fisher, J. G., J. R. Frederickson, and S. A. Peffer, 2000, Budgeting an experimental investigation of the effects of negotiation, *The Accounting Review* 75 (1) : 93-114.
20. 論文は3部提出し、そのうち2部は著者名・所属等を削除したものとする。
21. 著者校正は再校までとする。
22. 抜き刷りについては、50部を無償で執筆者に贈呈する。51部以上の場合には、別刷り代金としてその実費を徴収する。
23. 原稿には受付日と改訂日と採択日を個々の原稿の最初の頁にに入れる。受付日は原稿の提出された日、改訂日は改訂原稿が提出された日、採択日は査読終了により編集委員会によって掲載が決定された日とする。

以上

2004.4. 1 改  
 2011.4. 1 改  
 2013.4. 1 改  
 2015.1.30 改